

各 位

会 社 名 株式会社ヴィレッジヴァンガード
 コーポレーション
 代表者名 代表取締役社長 白川 篤典
 (JASDAQ・コード 2769)
 問合せ先 取締役管理本部長 滝島 知樹
 電話 052-769-1150

平成 29 年 5 月期第 2 四半期累計期間業績予想と実績値の差異 および通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成28年10月14日に発表いたしました平成29年5月期第2四半期累計期間業績予想と実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成29年5月期（平成28年6月1日～平成29年5月31日）の通期の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成29年5月期第2四半期累計期間業績予想と実績値の差異

(1) 連結業績予想と実績値の差異（平成28年6月1日～平成28年11月30日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	17,416	△128	△238	△525	円 銭 △68.24
今 回 実 績 値 (B)	16,483	△354	△495	△780	△101.38
増 減 額 (B-A)	△932	△226	△256	△255	
増 減 率 (%)	△5.4	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成28年5月期第2四半期累計)	21,648	△221	△246	△408	△53.06

(2) 個別業績予想と実績値の差異（平成28年6月1日～平成28年11月30日）（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	16,917	△188	△397	円 銭 △51.56
今 回 実 績 値 (B)	15,969	△483	△685	△89.04
増 減 額 (B-A)	△948	△295	△288	
増 減 率 (%)	△5.6	—	—	

(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 5 月期第 2 四半期累計)	16,621	△52	△153	△19.95
---------------------------------------	--------	-----	------	--------

2. 通期業績予想の修正

(1) 平成 29 年 5 月期の連結業績予想(平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	37,772	634	525	△132	円 銭 △17.20
今回修正予想 (B)	35,737	241	90	△784	△101.88
増減額 (B-A)	△2,034	△392	△434	△652	
増減率 (%)	△5.4	△61.9	△82.8	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 5 月期通期)	46,758	△271	△348	△4,353	△565.70

(2) 平成 29 年 5 月期の個別業績予想(平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日) (単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	36,635	587	16	円 銭 2.07
今回修正予想 (B)	34,747	115	△512	△66.51
増減額 (B-A)	△1,887	△471	△528	
増減率 (%)	△5.2	△80.3	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 5 月期通期)	36,360	709	△4,546	△590.66

3. 平成 29 年 5 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想と実績値の差異および通期業績予想の修正理由

(1) 業績予想と実績値の差異理由

(連結業績)

当第 2 四半期連結累計期間の実績につきましては、国内直営店舗においては、お客様一人あたりの消費単価は対前年を上回りましたが、ヒット商品・オリジナル商品が少なかったことを主要因とする購買客数が対前年を下回ったことにより売上高は計画比 94.4%、オンライン販売においてもクリエイター商品・限定商品は順調に推移したものの、売上高は計画比 99.5%となりました。売上総利益につきましては、仕入のコントロール、アウトレット店舗での在庫の消化に継続的に取り組んだものの、売上高の減少が影響し計画を下回る結果となりました。販売費及び一般管理費については削減及び効率化に取り組んでまいりましたが、売上高の減少を吸収するまでには至らず、営業利益は計画を下回る結果となりました。また、子会社売却に係る借入の実施、事業資金の調達におけるファイナンス手数料が発生したことなどにより、経常利益、親会社株式に帰属する四半期純利益ともに計画を下回る結果となりました。

(単体業績)

当第 2 四半期連結累計期間の実績につきましては、お客様一人あたりの消費単価は対前年を上回りましたが、ヒット商品・オリジナル商品が少なかったことを主要因とする購買客数が対前年を下回ったことにより、売上高は計画比 94.4%となりました。売上総利益につきましては、仕入のコントロール、アウトレ

ット店舗での在庫の消化に継続的に取り組んだものの、売上高の減少が影響し計画を下回る結果となりました。販売費及び一般管理費については削減及び効率化に取り組んでまいりましたが、売上高の減少を吸収するまでには至らなかったこと、また、子会社売却に係る借入の実施、事業資金の調達におけるファイナンス手数料が発生したことなどにより経常利益、四半期純利益ともに計画を下回る結果となりました。

(2) 通期業績予想の修正理由

(連結業績)

第2四半期連結累計期間時点にて、国内直営店舗においては、お客様一人あたりの消費単価は対前年を上回っておりますが、購買客数が対前年を下回る状況にあり、売上高は計画比94.4%の実績にて推移し、オンライン販売においてもクリエイター商品・限定商品の売上は順調に推移したものの、売上高は計画比99.5%の実績にて推移してまいりました。売上回復の対策として、新商材の発掘、オリジナル商品の開発、新たなクリエイター商材の発掘に取り組むとともに、利益につきましても仕入・在庫のコントロールの強化およびキャッシュ化、販売管理費の削減にも取り組んでおります。しかしながら、売上回復策への取り組み効果は数か月の期間を要することから、下期以降につきましても業績は厳しい状況にて推移し、売上高は当初の計画に対し94.6%と上期と同様の水準にて進捗していくものと予想しております。これに伴い、営業利益、経常利益ともに減少する見込であります。

また、店舗損益の悪化に伴い、固定資産に係る減損損失等の発生も予想され、親会社株式に帰属する当期純利益も減少する見込であることから、通期の業績予想を修正するものであります。

(個別業績)

第2四半期累計期間時点にて、お客様一人あたりの消費単価は対前年を上回っておりますが、購買客数が対前年を下回る状況にあり、売上高は計画比94.4%の実績にて推移してまいりました。売上回復の対策として、新商材の発掘・オリジナル商品の開発に取り組むとともに、利益につきましても仕入・在庫のコントロールの強化およびキャッシュ化、販売管理費の削減にも取り組んでおりますが、売上回復策への取り組み効果は数か月の期間を要することから、下期以降につきましても業績は厳しい状況にて推移し、売上高は当初の計画に対し95.3%にて進捗していくものと予想しております。これに伴い、経常利益は減少する見込であります。

また、店舗損益の悪化に伴い、固定資産に係る減損損失が増加することも予想され、これらの事象により、当期純利益も減少する見込であることから、通期の業績予想を修正するものであります。

※上記業績予想等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上